

食生活や健康管理
に関心のある方！

子育て・孫育て
世代の皆さま！

愛知学泉大学・愛知学泉短期大学

「生活と文化」講座

日々の生活や身近にある文化を見つめなおし、暮らしをゆたかにするきっかけとして、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学所属の教員による公開講座を開催いたします。
ぜひお誘いあわせのうえ、ご参加ください。

**1講座のみ受講も
大歓迎です！**

回	開催日	内容・講師
1	3/1 (水)	愛知学泉大学 家政学部 家政学科 こどもの生活専攻 小幡 肇 准教授 「おたずね(質問)は楽しい」
2	3/2 (木)	愛知学泉大学 家政学部 家政学科 家政学専攻 相原英孝 教授 「食品と微生物 ～食パンマンVSバイキンマン～」
3	3/3 (金)	愛知学泉大学 家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 浅田英嗣 准教授 「低カロリーなのに高血糖？ 経験と研究でわかった血糖値を上げない食事法」
4	3/4 (土)	愛知学泉短期大学 幼児教育学科 清原みさ子 教授 「子どもと遊び ～遊びとおもちゃの歴史を通して考える～」

講座の内容は裏面を
ご覧ください

【開催時間】 10:00～11:30

【会場】 岡崎商工会議所 (当日の会場案内をご確認ください)
〔岡崎市竜美南1-2〕

【受講費】 1回 500円 (当日お支払いください)

【定員】 各回 30名 (申込先着順)

【申込み】 岡崎大学懇話会事務局 (岡崎商工会議所内) 岡田・松岡
TEL: 0564-53-6190 FAX: 0564-57-2189

【主催】 愛知学泉大学・愛知学泉短期大学、岡崎大学懇話会

岡崎大学懇話会事務局宛 FAX: 0564-57-2189 E-mail: okada@okazakicci.or.jp

「生活と文化」講座

お名前	TEL	FAX	ご住所 または 事業所名	受講希望講座(回)
				1・2・3・4
				1・2・3・4

※ご記入いただいた情報は、岡崎大学懇話会からの各種連絡・情報提供の為に利用する他、講師には受講者名簿として配付します。

各講座詳細

～1講座のみの受講も歓迎です。ぜひお誘いあわせのうえご参加ください～

回	開催日	内 容 ・ 講 師
1	3/1 (水)	<p>愛知学泉大学 家政学部 家政学科 こどもの生活専攻 小幡 肇 准教授</p> <p>「おたずね（質問）は楽しい」</p> <p>学校での授業を思い出してみてください。多くは、先生から「問われ」たことを、どう「答えるか・応えるか」に苦労した記憶ではないでしょうか。 私も、公立小学校の教師時代は、子どもに問い、子どもに応答させることで授業を行っていました。しかし、日本に一校だけ、子どもが友だちに『おたずね』をして授業を進めていく小学校があるのです。この講座では、皆さん方に『おたずね』を経験していただき、コミュニケーションを図る楽しさを実感していただくことをねらいとします。気軽に受講していただければ幸いです。</p>
2	3/2 (木)	<p>愛知学泉大学 家政学部 家政学科 家政学専攻 相原英孝 教授</p> <p>「食品と微生物 ～食パンマンVSバイキンマン～」</p> <p>微生物という言葉には、みなさんどんなイメージをお持ちでしょうか？ 子供の頃、最初に耳にする言葉は、バイキンではないでしょうか？そこから、非常に悪いイメージとして受け取ってしまいます。しかし、パンを作るときに活躍するイースト菌（酵母）のように我々の生活の中には、無くてはならない微生物が数多く存在します。意外と知られていない微生物の役割を食品中心に考えてみましょう！</p>
3	3/3 (金)	<p>愛知学泉大学 家政学部 家政学科 管理栄養士専攻 浅田英嗣 准教授</p> <p>「低カロリーなのに高血糖？ 経験と研究でわかった血糖値を上げない食事法」</p> <p>生活習慣病の中でも糖尿病は国民の中に深く浸透し、健康寿命に影響しています。 高齢になれば臓器の機能が弱くなるのは当然ですが、膵臓もそれまでの生活習慣、特に食習慣の良し悪しで長持ちもするし、“枯渇”もします。では、どうしたら膵臓を長持ちさせられるのでしょうか。最近では“糖質制限食”が注目されていますが、40年の病院勤務の経験と、当大学において学生との研究で分かった血糖値を上げない食事法「糖質調整食」の理論と実践を紹介します。</p>
4	3/4 (土)	<p>愛知学泉短期大学 幼児教育学科 清原みさ子 教授</p> <p>「子どもと遊び ～遊びとおもちゃの歴史を通して考える～」</p> <p>遊びをせんとや生まれけん—大昔から、子どもは遊んできました。同様に、大昔からおもちゃもありました。紀元前のおもちゃには、今にも通じる工夫がみられます。物として残らない遊びは、おもちゃのように大昔からの資料はありません。 有名なのはブリューゲルの「子どもの遊び」の絵ですが、16・17世紀になると遊びの様子がわかり、今でも行われている遊びがいくつもあります。 ここでは、歴史を通して、子どもの本質に合った遊びとおもちゃについて考えてみたいと思います。</p>